

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第2号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成21年度 病害虫発生予察特殊報 第2号

平成21年(2009年)10月30日
滋 賀 県

1. 病害虫名 : トマト黄化葉巻病

2. 病原名 : トマト黄化葉巻ウイルス
Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)

3. 作物名 : トマト

4. 発生経過

平成21年10月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて、頂葉の黄化や葉縁部の退緑症状、葉巻症状が認められた(図1, 2)。LAMP法によりトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)の検定を行ったところ、陽性反応を示した。さらに、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所にPCR法による検定を依頼したところ、本病はトマト黄化葉巻病であり、トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)イスラエル系統によるものであることが判明した。

本病は、西日本及び関東を中心に35都府県で発生が確認されている。

5. 本病の特徴

1) 病徴

発病初期は上位葉が葉縁部から黄化して葉巻症状を示し、その後葉脈間が黄化して縮葉となる。症状がさらに進行すると、頂部が叢生(そうせい)して株全体が萎縮する。育苗期から生育初期にかけて感染すると被害が大きい。発病後は開花しても結実しなくなる。ミニトマトでは、トマトに比べて被害程度が比較的軽い傾向がある。

2) 伝染経路

本ウイルスはタバココナジラミ(図3)のバイオタイプBおよびQ(※注参照)によって媒介される。り病植物をタバココナジラミが吸汁することで、ウイルスを獲得し、死亡するまで伝搬能力を持つ。経卵伝染、土壌伝染、種子伝染ならびに管理作業による接触伝染は確認されていない。

3) 宿主植物

日本で自然発生が確認されているのは、トマト、ミニトマトおよびトルコギキョウの3種である。

6. 防除対策

本ウイルスを媒介するタバココナジラミを 1)施設に入れない、2)施設で増やさない、3)施設から出さない、という3つの取り組みを基本とした次のような対策が必要である。

1) 施設に入れない

- ・施設開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し、タバココナジラミ成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺に光反射マルチを設置し、タバココナジラミ成虫の侵入を防ぐ。

- ・黄色粘着板や黄色粘着テープを設置し、タバココナジラミ成虫の早期発見と捕殺に努める。
- 2) 施設で増やさない
- ・育苗期から定植時にタバココナジラミ バイオタイプQに効果のある粒剤を施用し、定植後も定期的に薬剤を散布する。
 - ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。
 - ・発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋などで密封して保毒虫の拡散を防ぐ。
- 3) 施設から出さない
- ・栽培終了時にはトマトの茎を株元で切断するか抜根した後、ハウスを密閉して蒸し込みを行う。
- 4) その他注意すべき事項
- ・苗を購入する際には、タバココナジラミの寄生とウイルス感染が無いことを十分に確認する。
 - ・タバココナジラミの増殖源となる施設内および周辺の雑草を除去する。
 - ・発病の認められた地域では、トマト栽培の無い期間を30日以上設定し、伝染環を断ち切る。
 - ・野良生えトマトはタバココナジラミ及びTYLCVの増殖源となるため適切に除去する。



図1 TYLCV感染株



図2 頂葉の黄化、葉巻症状



図3 タバココナジラミ成虫
(体長約0.8mm)

※注) バイオタイプとは遺伝子的な違いにより性質の異なる系統である。タバココナジラミの場合、国内では在来のバイオタイプに加えて、海外から侵入したバイオタイプBとQが分布している。本県では、バイオタイプQは平成18年に初めて確認されている。

滋賀県病害虫防除所
<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/>
 滋賀県蒲生郡安土町大中516
 TEL:0748-46-4926・6160
 FAX:0748-46-5559
 Email:GC70@pref.shiga.lg.jp